

2月16日(木)



手術支援ロボット「ダビンチ」の説明を熱心に聞き入る児童たち＝15日、琴浦町の船上小

手術ロボに興味津々

船上小で鳥大病院院内ツアー

琴浦町の船上小で15日、鳥取大医学部付属病院によるオンライン院内ツアーがあった。児童が同病院の手術ロボット「ダビンチ」について本紙に投稿したのがきっかけ。医師や看護師らがカメラを通して、院内や手術室を案内し、ダビンチを説明すると、児童は興味津々で聞き入り、医師らに質問して交流を温めた。

NIE（教育に新聞を）に積極的に取り組んでいる

同校では、全児童が毎週、気になる記事を作文にして学校に提出し、その中から学校が選んで本紙に投稿している。今回は6年の森下夢子さんが同病院で昨年11月にダビンチで心臓手術が成功したことに触れ、自分がロボットに手術されるとなったらまだ心配と述べた作文が12月に掲載された。同病院広報・企画戦略センターでは、病院やダビンチを知ってもらおうと院内

ツアーを同小に申し込んだ。6年23人が参加し、心臓血管外科の吉川泰司副診療科長ら3人が案内。児童からは「ロボットを使うには免許があるのか」「ロボットでの手術費は高いのか」などと質問し、吉川副診療科長は「年間300件の手術をしている」などと丁寧に答えていた。

西永瑠佑己さん(12)は「ダビンチが3台あることやたくさんの人を救えることが魅力的と思った」と話した。(吉浦雅子)